

2026 年 7 月 16 日

メタ・プラットフォームズ (META)

好決算続くも市場評価厳しい。人員削減、データセンターのリーシングなどの方針転換あり。設備投資と TAM の不透明さが軟調の原因か。

ナスダック | インターネット・メディア | 業績フォロー

BLOOMBERG META:US | REUTERS META.OQ

4 月 29 日に発表された 1Q26 の四半期業績は、売上高が前年同期比 33%増の 563 億 USD、当期純利益が同 60.9%増の 267 億 USD で大幅な増収増益となった。粗利率は同 0.25 pts 減の 81.85%、営業利益率は同 0.87pts 減の 40.62%と、ほぼ横ばい。好決算にも関わらず翌日 4/30 の株価は終値ベースで 8.94%も下落した。

株価は過去 12 ヶ月間でみて軟調にあり、類似するテック企業の Amazon や Alphabet が上昇基調であるのに対し、Meta の株価リターンは下落基調にある (表②)。自社開発チップ (Google TPU や AWS Trainium など) を提供する側と、それらを利用する側との違いが出たとも言える。AI の使途が現状では広告マッチングやマーケティング用途に限定されている Meta 社と、自社チップ提供を通じて顧客経由で AI の使途を拡張できるクラウド企業との間には、潜在的な TAM (Total Available Market) の規模に大きな違いがあると言える。Meta は 7 月 29 日にも 2Q26 の決算発表を控えているが、好業績の発表のみでは株価の上昇トリガーとしては弱いかもしれない。

Meta は直近、データセンター投資への集中のために人員を削減することや自社のデータセンターキャパシティの余剰分を他社へリーシングする方針などを発表している。特に後者は、自社に必要な規模以上の計算資源を抱えている (資産に非効率性がある) との評価につながっている恐れがある。

エージェント型 AI において、SSOT (Sigle Source of Truth)と呼ばれる、アウトプットの正しさを測るための“真実”と言えるようなデータセットの有無が重要になっている。Alphabet のような膨大な検索データを持つ企業や、AWS のようなクラウドの根幹を担うような企業などは SSOT を有していると考えられる。一方で Meta が保有している SNS の投稿データは雑多で横並びであり、データのみではその信憑性を確認することはできない。Meta が過去に詐欺広告を AI で排除できなかったことも、SSOT の不在を示唆している。AI 企業としても SSOT を有する企業より劣位にあると言えるだろう。

通期実績推移 (12月期)	FY23	FY24	FY25	CAGR	FY26(F)
売上高 (百万USD)	134,902	164,501	200,966	22.1%	253,079
当期利益 (百万USD)	39,098	62,360	60,458	24.4%	102,464
希薄化後EPS (USD)	14.87	23.86	23.49	25.7%	38.18
一株あたり配当 (USD)	0.00	2.00	2.00	N/A	2.16
四半期実績推移	1Q25	4Q25	1Q26	ΔY/Y	2Q26F
売上高 (百万USD)	42,314	59,893	56,311	33.1%	60,248
売上総利益 (百万USD)	34,742	48,988	46,093	32.7%	--
粗利率 (%)	82.11	81.79	81.85	-0.25pts	--
営業利益 (百万USD)	17,555	24,745	22,872	30.3%	--
営業利益率 (%)	41.49	41.32	40.62	-0.87pts	--
当期利益 (百万USD)	16,644	22,768	26,773	60.9%	--
希薄化後EPS (USD)	6.43	8.88	10.44	62.4%	8.80

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

* 青字・水色字はアナリストの計算、集計による

フィリップ証券株式会社・リサーチ部

三角友幸

TEL: +81 3 3666 0707 (直通)

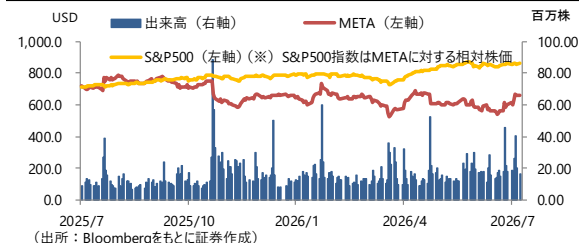
E-mail: tomoyuki.misumi@phillip.co.jp

予想配当 (USD)	2.16
株価 (USD)	661.04
実績 PER (倍)	19.67
予想 PER (倍)	17.32
時価総額 (10億 USD)	1,678.0
3ヵ月平均売買代金 (百万USD)	10,959.6

* 配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は7月14日終値による

* 実績PERは過去12ヶ月累計EPSによる

会社概要
■2004年にマーク・ザッカーバーグ氏により設立されたソーシャルメディア企業。2012年にナスダックにクラスA 普通株式を上場。2022年に社名をメタ・プラットフォームズへ変更。クラスA普通株式は一株1票の議決権を持つに対して、クラスB株式は一株10票の議決権を持つ。クラスB普通株式の主たる保有者である現CEOマーク・ザッカーバーグ氏が議決権の過半数を有する。
■Family of Apps: 主要SNS であるFacebook、Instagramなどに掲載される広告収入が主たる収益源である。
■Reality Labs: メタバース技術を事業化。VRヘッドウェアのMeta QuestやRay-Ban Meta AI Glassなどのウェアラブル、AI関連ソフトウェアが収益源。



① 株価リターンデータ *	META	S&P500	β推計値	α(アルファ)
市場ベータ (β)	1.45	1.00	--	--
日次平均リターン (r)	-0.03%	0.10%	0.15%	-0.18%
日次標準偏差 (σ: シグマ)	2.21%	0.75%	1.09%	1.91%
r + 1σ 超過利得・観測日数	20.0	28.0	--	--
r - 1σ 超過損失・観測日数	24.0	31.0	--	--

* 2025/7/11~2026/7/14の過去52週の株価 (終値: ブルームバーグ) に基づいて算出。

* 各項の定義および含意については次頁参照

② 競合・類似企業比較(市場)	GOOGL	MSFT	AMZN	META
直近株価 (26/7/14: USD)	359.51	384.93	247.49	661.04
時価総額 (26/7/14: 10億USD)	4,364	2,859	2,662	1,678
予想PER	24.91	22.56	24.15	17.32
12ヶ月年率平均リターン (250日)	68.5%	-26.6%	9.4%	-8.1%
年初来リターン (終値ベース)	13.7%	-18.2%	6.2%	0.5%

* 各社直近株価、時価総額、予想PERはBloombergデータに基づく

業績詳細 (単位: 10億USD)	GOOGL	MSFT	AMZN	META
③ 競合・類似企業比較(業績)	GOOGL	MSFT	AMZN	META
直近決算発表日	4月29日	4月29日	4月29日	4月29日
直近決算区分	1Q26	3Q26	1Q26	1Q26
TTM・売上高	422	318	743	215
売上高CAGR (3ヵ年)	9.9%	10.4%	7.9%	14.6%
%3ヵ年平均営業利益率	31.5	45.6	10.2	40.5

*TTM(trailing twelve months)は直近の四半期決算を基準とした過去12ヶ月の業績の集計値

*売上高CAGRと平均利益率は、各社直近決算日とその前年同期、前々年同期を起算日として選定し計算した各期TTM業績に基づく。(METAの場合、1Q26、1Q25、1Q24を基準としたTTM業績を参照)

④ セグメント別業績	1Q25	4Q25	1Q26	ΔY/Y
Family of Apps 売上収益	50.8	59.9	55.9	10.1%
Family of Apps 営業利益	25.0	30.8	26.9	7.7%
Reality Labs 売上収益	0.41	0.96	0.40	-2.4%
Reality Labs 営業損失	(4.43)	(6.02)	(4.03)	-9.1%

⑤ 研究開発費および設備投資	1Q25	4Q25	1Q26	ΔY/Y
研究開発費	(12.2)	(17.1)	(17.7)	45.7%
設備投資 (資本支出+リース)	(13.7)	(22.1)	(19.8)	44.9%

⑥ キャッシュフロー推移	1Q25	4Q25	1Q26	ΔY/Y
当期純利益	16.6	22.8	26.8	60.9%
営業キャッシュフロー(CFO)	24.0	36.2	32.2	34.1%
フリーキャッシュフロー(FCF)	10.3	14.1	12.4	19.9%

(引用: 表③~⑥は企業公表値にもとづいてアナリストにより作成)

* 青字・水色字はアナリストの計算・集計による。

<レポート右図表における『株価リターンデータ』の項目における用語説明>
レポート右図における『株価リターンデータ』の各項目を以下のように定義し、情報端末より引用、もしくは情報端末の市場データを用いて算出しています。

市場ベータ（β）	ブルームバーグ端末より参照した市場ベータ値（未修正＊）。当該株式と指数との連動性を示しており、当該株式を保有する投資家が取っている市場リスクの多寡を示す。 ＊ 未修正とは、ブルームバーグ調整ベータと異なり、時価総額による調整を行っていないことを指す。
日次平均リターン（r）	観測期間（過去 52 週）における日次リターン（前日終値に対する当日終値の上昇・下落率）の平均値。
日次標準偏差（σ：シグマ）	観測期間（過去 52 週）における日次リターンの標準偏差であり、投資家が取っている価格リスクを示す。
r + 1σ利得超過・観測日数	過去 52 週（営業日数 250 日前後を想定）における実測の日次リターン（利得）が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)× 1 の和を超過した日数。
r - 1σ損失超過・観測日数	過去 52 週（営業日数 250 日前後を想定）における実測の日次リターン（損失）が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)× 1 の差を超過した日数。
β推計値	S&P500 をベンチマーク指数とし、ベンチマークの日次リターンに当該株式の市場ベータを乗じて導出した、当該株式の日次リターンの推計値の過去 52 週平均値、および推計日次リターンの過去 52 週の標準偏差値。
α（アルファ）	β推計された日次リターンと実測日次リターンとの差分。投資家が当該個別株に投資することによって得られた市場リスクに対する理論上の超過利得（損失）を示す。

＊ 当該株式のリターン、S&P500（指数）リターン、β（ベータ）と α（アルファ）には以下の関係があると想定する。

$$R_{\text{株式}} = \alpha + \beta \times R_{\text{指数}}$$

$R_{\text{株式}}$: 当該株式の価格リターン
 $R_{\text{指数}}$: ベンチマークとなる指数の価格リターン

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101 URL： <http://www.phillip.co.jp/>
本レポートの作成者 ：リサーチ部 三角友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

< 日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平 14.1.25）」に基づく表示 >
・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。